



# なきごえ



1991

2

大阪市  
天王寺動物園協会





小さい頃からの記憶をたどると、私が受け止めた世界のさまざまな情景は、しばしばそのとき聞こえていた音によって綴られていることが多い。逗子という自然に恵まれた海辺の小さな町に育った私は、夏の夜、網戸越しに響く波の音や、家のまわりで鳴く得体のしれない生き物たちの怪しい鳴き声に、息を殺して聞きいりながら、夜の世界を思い描いた。また、オタマジャクシのかえった田んぼで道草する頭の上高くを、大きなトビが悠然と飛びながらピーロロロなどと鳴いたり、アブラゼミでケヤキがわんわんと鳴ったり、色づいた裏山の梢でモズが夕日に金色に輝きながら声を上げたり、木枯らしに唸り声をあげる電線のもとで屋根のスズメが凜としてチュンと一声鳴いたりするのは、みな季節の徴として記憶された。

音ばかりではないが、このような自分のまわりの世界の体験は、まるで飲み食いと同じように私の中に入ってきて、私の身体を作り上げているらしい。身のまわりの慣れ親しんできた環境、すなわち幼いときから幾度も繰り返し体験する事象は、私が理解する世界の素地となる。しかし、年齢を重ねるにしたがって、行動範囲も体験の質も変わっていく。ちょうど何枚もある扉を次々と開いていくように、自分のまわりの世界を見出していくのだ。

たぶん誰にでも、自分と世界との関係を見出す何かしらの体験が他の生きものとの間にある。ある生きものは確かに私たちの食物であって、食物以外のあり方があるなんてことは通常忘れられている。ただし動物園で、あるいは青空の下緑の牧場でウシを見ると、まるで同胞に対するかのようなやさしい思いを抱かずにはいられない。もともと食物として考えなくてよい生きものであったら、それが毒蛇であろうとも、付き合い方次第ではこの世界に共に生きるものとして、尊敬の念さえ抱いてしまうだろう。そうした生きものの中に、ちょうど星の王子様の一輪の花のような、特に心ひかれるものがあるかもしれない。

私にとって、忘れ得ぬ生きものたちといえば、まずアオバズクである。アオバズクはこげ茶の頭に白地に茶色の斑模様をした中型のフクロウで、日本には青葉が萌え出る4-5月に東南アジアより渡ってくる。私が育った家のまわりでは昔から毎年のように子をかえしている。営巣樹はうろがあるような大木で、ふつう

社寺林によく見られるから、人々にはしばしば神の使いと覚えられてきた。これがホーホー、ホーホーと寂しく鳴くのだが、長いこと私は、墓地やお化け屋敷にまつわる気味悪い想像をかきたてるばかりであった。これがれっきとしたフクロウの仲間、*Ninox scutulata*という学名をもつ鳥の声であることを知ったのは、大学で生物学を学んでしばらくたったころのことであった。観察を続けるうちに、「アオバズクと私」というかなり私的で濃密な関わりが育っていった。しかし、この鳥の音声やしぐさを詳しく調べていくと、自分のまわりのさまざまな生き物たちとそれらの生活の場に生じていることがらも、つい見えてきたり聞こえてきたりするようになった。特に、音にかかわる問題が私の興味を強く引くのだ。それはひょっとすると、アオバズクの鳴き声を初めて聞いたときに起きた刷り込みによるものかもしれない。

さいわいなことに、私はおととしの4月から千葉市にある千葉県立中央博物館に勤務しながら、音の世界について取り組める場を得ている。この博物館は、自然史を主体として、学芸のスタッフが60人余にのぼり、県立レベルでは今のところ最大のものだ。望みは高過ぎるはいけなけれど、この博物館に行けば、剝製ばかりでなくその鳴き声などの行動や生態についてもよくわかる、というようになったら私は本望である。確かに、多くのナチュラリストは、博物館がとりすました展示収蔵場ではなくて、山登りのときのベースキャンプのように、彼らの登頂を応援する場としてより具体的なものを求めている。博物館はそれに応えて、自然史資料の収集・整理保存・調査研究・展示・教育普及活動という5つの仕事を、バランスよくこなしていかなければならないだろう。

ただし、事態はさらに変わっていくだろう。私たちの自然環境は刻々と蝕まれ、絶滅に瀕している生きものへの対応が急速に求められている。博物館が蓄えている自然誌資料やさまざまなデータは、自然保護における重要な基礎資料であって、他にはないかけがえのないものである。その資料をどのように使うのか、自然保護における博物館の役割が問われるのである。私は、昨年末にニュージーランドを訪れた。現在この国では、自然保護が最重要な課題である。マオリ族および西欧人の上陸にともなって、モアを始め多くの鳥が絶滅し、生き残ったニュージーランド固有の生きものたちは、わずかに残された原生林に追込まれてしまっている。何かを今しなければ、残っているものすら危険である。滞在中に私は何度か原生林を訪ねた。そこで繰り返された音の饗宴は、今まで聞いたもののどれとも違い、神秘的で別世界としか言いようがない。こんな美しい音を失っていいわけがないと思いつつ、テープに納めた。はやりの環境音ブームのように楽しみや安らぎが目的ではない。この世界についての物語を語りつぐ声として、多くの人に聞いてもらわなければと思うばかりである。

(千葉県立中央博物館 学芸研究員)



“元気いっぱいノショウガラコ”

昨年10月25日に2頭誕生したショウガラコ、今は、親と同じぐらいの大きさになりました。

夜行性動物舎で、忍者のように元気に飛びまわっています。

(撮影：大谷直樹)

なきごえ2月号もくじ

動物と私	2
“元気いっぱいノショウガラコ”	3
訪中雑感	4-5
動物名今昔ばなし	6-7
動物園日記・動物園グラフ	8-9
公園花暦	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“アジアゴールデンキャット”(Felis temmincki)

中国名を金猫、原猫、黄虎とも呼びます。中国の雲南省西南部、四川省東部、福建省福州、チベットに分布する美しいヤマネコです。当園のものは昭和62年6月に上海市との第6次動物園交流として来園しました。(撮影：大川光雄)

昨年10月21日、私も4人は上海市との第8次動物交流事業のため、中国を訪れる機会に恵まれた。やはり実際に行ってみるまでは中国は遠い外国という感じがしていたが、時間的には2時間少々ということと改めて「遠くて近い隣国」という実感を味わった。

上海では張詞祖園長をはじめ、面識のある関係者の暖かい出迎えを受け、言葉こそ異なれど同じアジア人という親近感が初めての中国訪問という緊張感を和らげてくれた。



上海動物園での交流動物贈呈式

以下、日程に沿ってベンを走らせることにする。上海動物園は空港から程なく走ったところにあり、当園の7倍という広大な敷地はさすがに訪れる者を圧倒した。元ゴルフ場であった敷地を転用したということもあって、広々としたグリーンの穏やかな起伏にどことなく奈良公園に似た印象と安らぎを感じた。

今回、大阪から贈呈する動物はワライカワセミ4羽とカリフォルニアアシカ2頭である。

動物の贈呈式は、園林管理局関係者、動物園関係者および上海市民の代表として幼稚園児約100名、それに一般入園者が大勢見守る中、顧金根副園長の司会で盛大に挙行された。顧副園長は等7次交流時の団長として来阪した時以来の再会である。彼独特の豪快な笑い声とメリハリのある中国語は特に印象に残っていたので非常に懐かしく思われた。

会場にはワライカワセミが出番を今や遅しと待っていたが、周りの騒音にいきさか興奮ぎみで暴れて怪我をしなければ、と気を揉んでいたが、本番になって鳴き声を録音したテープを流すと、それに呼応して一斉に元気な鳴き声で応えてくれた。すかさず会場からさかんな拍手が沸き、肩の荷がおりた思いがした。

その後、海獣舎に移り、アシカの一般公開を行なったが、獣舎の入口で両手を広げて迎えてくれたのが、これも第7次交流時から面識のある史志豪獣医で、「老朋友、老朋友……」と私を抱きしめて、「このアシカは私が担当することになったので非常に喜んでいて」と握手に力をこめた。

私は、過去の交流で贈呈したアシカの消息を求めて、屋外の放飼場を見学していると、張園長が手招きで私を呼び寄せ、近い将来、海獣舎をここまで拡張し、レイアウトもこのようにするのだ、とその構想を語ってくれた。拡張にしても増設にしても敷地のことを心配なしに自由にやれるのだから、その点

に関しては本当に羨ましいと思った。

園内見学は翌日ということで、これより繁殖センターに向う。

1983年に開設された面積4haの施設で、コウノトリ、ターキン、金絲猴、等中国第一級動物の繁殖を図る目的でつくられた非公開の施設である。獣舎は古い檻または金網式のもので設備的には目新しいものはなかったが、静かな環境の中でのびのびと生活しているためか、どの動物もよく繁殖しているようだ。

現在、飼育している動物は27種である。この中には来年、大阪にやってくるヨウスコウワニも含まれており、子供も沢山生れていた。いづれも人工孵化によるものである。人口孵化装置といっても大掛かりなものではなく、熱帯魚飼育用の水槽のようなものを利用し、熱源は裸電球の入った簡単な手作りのものであったが、それだけに孵化に漕ぎ着けるまでの苦労は大変なものであったに違いない。幸い、同行の榊原獣医がセンター所長の何宝慶氏と面識もあり、人工孵化のノウハウを親切に教えてもらうことができた。将来、当園で繁殖に挑戦する場合、大いに参考になると思う。

ターキンも中国ご自慢の動物で、獣舎には四川、西藏、山西3亜種、9頭が飼育されていた。「繁殖はどうですか？」との問いに、「毎年、順調です。」と所長が誇らしげに答えた。その時、私の隣にいた動物交流課長が「希望があれば大阪には優先的にだしてもいいですよ。ただし、ターキンに見合う動物と交換という条件でね。」と冗談とも本気ともれる話を持ちだしてきた。先頃、岡山の池田動物園にこの動物が贈られて話題になったが、これが前例となって、国外に出すことに方針が変わったのだろうか？



上海動物園、繁殖センターのヨウスコウワニ

「しかし、これに見合う動物を探すのは大変でしょうね！」とだけ答えておいた。具体的にどんな動物を考えているのか参考のために聞いてみようと思ったが、それは思い留った。だが、将来的に交流を継続していく中で、いづれこの話が出てくる可能性もあるような気がする。

翌日の動物園見学は生憎の雨に祟られ、放飼場に動物が見えないなど、大変残念な巡り合わせとなった。飼育数は320種と大阪とほぼ同じだが、点数は約3倍の3,800点である。入園料は一元で有料の対象となるのは、身長120センチ以上というのが面白い。

獣舎はパンダ舎を除くとあとは旧態依然とした檻

式、金網式のもの専らで、あまり参考にならなかった。

園内には天王寺動植物園がすっぽりと入るぐらいの大きな水禽池があり、ガン・カモ類のほかにペリカンやコサギが飛来し、池の中の島に住みつき自然繁殖しているのが目を惹いたが、折角の樹木が白い糞で汚れているのが惜しまれる。しかし、これも自然の姿だと思えばそれでいいのかもしれないが……。

動物病院ではX線をはじめ日常の診療や検査はひと通りできるように整備されていた。室内は整理整頓が実に行届いており、寄生虫関係の標本が整然と並べられ、まるで年末の大掃除のあとを見る思いがした。私どもの訪問を予期して片づけたのでは、という僻んだ見方もあるが、ここは率直に見習うべきであろう。

北京動物園は中国最大の動物園で、面積90ha飼育動物539種、約4,000点というから凄いの一言に尽きる。

北京滞在中、終始、私どもに随行して案内や世話をしていたのは業務課長の李荘氏である。このところ外国からのお客がひっきりなしに訪れるので、その対応に忙殺されて本来の仕事が捗らない、と本音をひとくさり。ハッキリものを言う人だな、というのが第一印象。もっとも後から分ったことであるが、彼には心臓病の持病があり、つい最近、手術したばかりだという。そういう顔に疲労の色がうかがえた。案内に先立って、「当園はゆっくり見学すると、まる2日はかかるから案内は主などころだけで我慢してほしい」とまず一発、釘をさしておいて、まっ先にパンダ館へ向う。途中、レッサーパンダ舎が目にとまったので立止まると、すかさず「はい、どうぞ」と流暢な日本語で先を急がされ、私どもが立止まる度に、この台詞が飛出した。彼にしてみれば、あまり参考にならない施設見学に時間をかけたくない、という彼なりの配慮であったかもしれない。



北京動物園のパンダ館

さて、北京ご自慢のパンダ館は、先日開かれたアジアスポーツ大会に間に合わせるために突貫で建設したそうである。建設費は日本円で約4億円、中国としては大変な出費である。計画当初の予算を大幅に超過した経費の補填をするため、不本意ながら、パンダ館は2元の入館料を徴収することになったそうである。展示場は前面ガラス張りの近代的な建物で中々の出来栄である。また内部の管理通路や調理

室、隔離室、診療用の檻などもよく工夫されていた。天津の動物園は北京を朝早く発ったにもかかわらず、スモッグによる交通渋滞に巻き込まれ、到着したのは昼になってしまい、見学時間の大幅な短縮を余儀なくされた。

動物園としては10数年と歴史は比較的新しい割には施設の印象に残るものが乏しかった。

動物園には幼稚園や小学生の団体が大勢、入園している風景は日本でもお馴染みであるが、紙屑やビニール袋などのゴミはあまり散らしておらず入園者のマナーは中国の方が良いと感じた。

私どもが訪れる10数日前には、北京でアジアスポーツ大会が開かれていたこともあって、行く先ぎきの街のあちこちに環境美化や外国人を暖かく歓迎しよう、と呼びかけるスローガンが掲げられていた。天安門事件後、失墜した中国の名誉を挽回すべく国家の威信を賭けて大会に参加した外国人に相当な気配りをしていた様子がひしひしと感じられた。

そのためもあってか滞在中は昼となく夜となく豪華な招宴の連続で、本場の中華料理を堪能した。特に使われる食材に興味をいだいていたので、次々に出てくる食材が何か、それがどのように調理されているか、まるでクイズを解くような楽しさであった。豚の胃や心臓、牛のペニス、アキレス腱などは過去、自分でも扱ったことがあるだけに一口食べればそれが何であるかが分ったが、味付はとて叶わないと思っ

た。そのほかにも干したナマコ、カエル、タウナギ、など中国の食材のスペクトルの広さには今更ながら感心した。感心したことのもう一つは、各園とも、園内に立派なレストランを備えていることである。室内のインテリアも豪華で、供される料理も一流ホテル並みである。そして一般入園者が久しぶりに家族や知人とテーブルを囲んで楽しい食事の一時を過ごす場所の一つに動物園が選ばれるというのも日本では考えられないことだ。折角の休日を楽しむ人の事を考えると、レストランの充実はこれからの課題になるかもしれない。

以上、動物園は上海、北京、天津の3園を見てまわったが、施設として印象に残ったのは北京のパンダ館である。しかし、新しい施設だけが動物園の評価の基準とならないのは勿論で、動物園として、野性動物が如何に順調に繁殖しているか、そしてそのための努力が如何にはらわれているか、が一番に問われなければならない。

その点、中国の野性動物保護に対する熱意は、繁殖センター一つをとって見ても相当なものであり、私どももこうした交流を通じてこれからも中国に学ぶべきことは多々あると思っ

た。(飼育課長：中山 良三郎)



# 動物名今昔ばなし

## 「古文と中国語にみられる動物の名称」

最近、テレビではクイズ番組が大はやりで、特に動物を題材にしたものも結構、見受けられます。今でこそ、幼児からお年寄までマスメディアの発達により居ながらにして豊富な知識を得ていますが、昔は見せ物小屋、茶屋(孔雀茶屋等)、錦絵、草紙、瓦版等により動物の様々な(たまには間違っただけ)知識を得ていました。

さて、これからこの誌面にちよっと見馴れない文字を書き並べてみますが、はて?これは何という動物なのか皆さん方に考えていただこうと思っっています。

「果然、狒々、猩々、黒猩々、頭巾猿、情猿、髭猿、口黒猿、縞猿、斑紋猿、水獺、白鼻狸、鼯、浣熊、こあいち、ピンチャロン、海豹、臘腸獸、海驢、斑馬、豪猪、鼯鼠、鏡鼠……」以上22問、何問お解りになりましたか?15問正解であれば貴方は大した動物もの知り博士といったところですね!正解は「タイワンザル、ヒビ、オランウータン、チンパンジー、哺乳類

目	標準和名	古名	中国名
有袋目	ウオンバット	フクログマ	袋熊
	フクロギツネ	子鼠、鼠、フランドット	帚尾袋貂
翼手目	オオコウモリ	大蝙蝠、四足鳥	蝙蝠
霊長目	スローロリス	惰猿、怠け猿、	懶猴、蜂猴
	リスザル	口黒猿	松鼠猿
	ゴンドラインダマリン	ライオン猿	獅面猿
	ボンネットモンキー	頭巾猿	冒猿
	タイワンザル	果然	台湾猿、台湾野猿
	シシオザル	獅子尾猿	獅尾猿
	ブラッサグエノン	髭猿	
	オランウータン	猩々、赤猩々	猩猩
	チンパンジー	黒猩々	黒猩猩
貧歯目	アラゲアルマジロ	廣帯鏡鼠	
嚙歯目	ヤマアラシ	豪猪	豪猪、刺猪、拾猪
	ムササビ	鼯鼠	鼯鼠、飛虎、松猫几
	ヌートリア	河狸鼠、ミオカスター	海狸鼠
食肉目	タヌキ	貉、狸、ムジナ	貉狸、貉子
	ヒグマ	熊、シグマ	棕熊、馬熊、人熊
	アライグマ	浣熊	浣熊
	ハナグマ	こあいち、コーチー、鼻熊	南美浣熊
	テン	雷獸、貂	貂、鼬
	カワウソ	水獺	水獺、水狗、獺猫
	アナグマ	牟士那、狸、まみ	狸子、狗狸、猪狸
	アライグマ	獾、シグマ	海獺、海虎
	ハクビシン	白鼻狸、白鼻忠、バグマ	果子狸、花面狸、白鼻狗
	ピントロング	木登熊、ピンチャロン	熊狸
	シマハイエナ	縞狼	鬣狗、縞鬣狗
	ブチハイエナ	斑紋狼	斑鬣狗、斑鬣狗
	ヒョウ	ナカツカミ、豹	豹、金錢豹、文豹
蹄脚目	アシカ	ミチ、海驢、海獅	海驢、海獅
	オットセイ	海狗腎、臘腸獸、海熊	海狗、臘腸獸、海熊
	アザラシ	海豹、水豹	海豹
海牛目	ジュゴン	マンバ、儒艮、人魚	儒艮、人魚
奇蹄目	シマウマ	ウサギウマ、驢馬	驢
	キバノロ	縞馬、斑馬	縞馬
偶蹄目	トナカイ	がしゅう、牙猿	犛、羴
		馴鹿	馴鹿

ボンネットモンキー、スローロリス、ブラッサグエノン、リスザル、シマハイエナ、ブチハイエナ、カワウソ、ハクビシン、アナグマ、アライグマ、ハナグマ、ピントロング、アザラシ、オットセイ、アシカ、シマウマ、ヤマアラシ、ムササビ、アルマジロ)でした。これらのややこしくて、古めかしい名前は昭和16年(1941年)当時の当園の動物台帳から抜き書きしたのですが、戦時中の敵性語排斥運動の煽りでもないでしょうが、それにしても難解で珍妙な名前が多く見受けられます。

今回は古事記、日本書紀、江戸時代の絵草紙、博物誌等から主に動物名だけを抜粋して編集された戦前の当園の動物2600年史、昭和16年の動物台帳、最近の当園の70年史、中国の動物事典と学名事典、中国語辞典、雑誌の禽獸図、花鳥画、細密画等から現在の動物名に対しての古い時代の呼び名、中国語の名称等を探ってみたいと思います。

とりあえず哺乳類と鳥類の名前を一部分だけとりあげ次のような表にしました。

目	標準和名	古名	中国名
キウイ	キウイ	奇異鳥	幾維、褐幾維
カツブリ	カツブリ	鳩、鳩、鳩、鳩、鳩	鴿
ベリカン	ベリカン	鸚鵡、鸚鵡、鸚鵡	鸚鵡
コウトリ	コウトリ	鶴、くわん、おとり	鶴
クロトキ	クロトキ	鴉	白鴉
カモ	カモ	真鴨、鳧、麻母母	綠頭鴨
ハクチョウ	ハクチョウ	鶴、くわん、くわん、白鳥	天鵝
オシドリ	オシドリ	鴛鴦	鴛鴦
ミサゴ	ミサゴ	鸛、鸛、角鸛、鴨、鴨	鸛
オオタカ	オオタカ	大鷹、大鷹、だい、せう	蒼鷹
ハイタカ	ハイタカ	灰鷹、鷹、鷹子	雀鷹
ツミ	ツミ	雀鷹、雀鷹、つさい	松雀鷹
トビ	トビ	鷹、鷂、鷂	鷹、黑鷹
ハヤブサ	ハヤブサ	鷹、隼	隼、游隼
ホロホロチウ	ホロホロチウ	珠鷄、母衣鳥	(珍)珠鷄
ベニジュケイ	ベニジュケイ	紅綬鷄	紅腹角雉
シヤコ	シヤコ	鷓鴣	鷓鴣
サケイ	サケイ	沙鷄、空厥雀	毛腿沙鷄
ホトトギス	ホトトギス	杜鵑	小杜鵑
ヨタカ	ヨタカ	白茅鷄、夜鷹	夜鷹
アマツバメ	アマツバメ	胡燕子、雨燕	白腰雨燕
ブッポウソウ	ブッポウソウ	仏法僧、青燕	三宝鳥
カワセミ	カワセミ	翡翠、翡翠	翡翠鳥
アトリ	アトリ	雁子鳥	燕雀
アオジ	アオジ	真鴨、鳧、青鴨、みどり	灰頭鴨
ミソサザイ	ミソサザイ	鷓鴣、ささぎ	鷓鴣
トラツグミ	トラツグミ	鷹、鷂、虎鷄	
カササギ	カササギ	鷓、からがらす	喜鵲
ハクセキレイ	ハクセキレイ	鶺鴒、はくせきれい	白鶺鴒
キュウカンチウ	キュウカンチウ	九官鳥、鶺鴒	鶺鴒

以上、ほんの一部を紹介させていただきましたが、このように日本名(漢名)と中国語とを対比させると中国語と共通のものが結構多いことが解ります。

しかし、一部の動物では中国名が先か、日本名が先か判断し兼ねるものもあります。中国にとっては特に国交に距離の隔りのあった南北アメリカ産のものは、日本を経由して入ったものもあると思われ、このため日本で命名した名前が参考にされたようなものもあります。アフリカ産の一部のものは却って海路、陸路のシルクロードを利用し、古くから交易があったため、日本より早くに入ったものもあると



斑馬(シマウマ)猩猩館(オランウータン館)と表示された案内表示板(北京)

思われます。それでは表のなかのいくつかをとりあげて説明したいと思います。

ウオンバットは双方同一の名前になっていますが、オーストラリアが建国の初期から中国アモイやホンコンと交易しておれば、日本より早くフクログマの名前が使われていたかも知れません。スローロリスもボンネットモンキーも原産地を考えると中国からもたらされたものと思われまます。冒猿の冒は帽子と同様でボンネットと解釈できます。ブラッサグエノンは残念ながら中国の学名事典にも辞書にも見出し



羚牛(ターキン)の学名札は陶技製(上海)せませんでした。黒猩猩といわれたチンパンジーの東洋への導入は歴史も浅く、オランウータンの猩猩の名前をなぞったものと思われまます。南米産であるアルマジロの鏡鼠の名前は中国の動物誌、学名事典、辞書にも該当するものはありませんでした。ヌートリアは日本名が移行したものと考えられます。シマハイエナの縞狼はオオカミにはほど遠い造語で、中国語での鬣狗はたてがみを持つ獵犬を表わします。豹をナカツカミと称するのは、陰陽道八将神の豹尾

神として真ん中に位置することからこの名があります。アシカ、オットセイ、ラッコは共にアイヌ語で、ラッコの日本名(臘虎)は音読からくるあて字と思われまます。オットセイの臘腸獸は音読を中国語に置きかえたものです。戦前の動物台帳でシマウマを斑馬と表記してあったのは中国語をそのまま使用したものだと思われ、縞馬の方がよく意味が通じるのに不思議に思われまます。

鳥類でキウイは双方とも鳴き声からくる音読のあて字が使われています。アジアに広く見られる鳥類の日本名(漢名)は殆んど古い時代に中国から伝わって来ております。しかし、ペリカンとウでは中国と日本では違いますし、日本でのクロトキが中国ではシロトキのごとくになっております。マガモやベニジュケイ、アオジでは中国語の方が形態、色合いがよく理解できます。トラツグミは中国の動物誌、学名事典では見出すことが出来ませんでした。こ



白長角羚(シロオリックス)の長い角の白いカモシカ…よくわかりますね(北京) 意を持っているのかお知恵を拝借したいと思っ

てはどのようの意味を持っています。まだまだいろいろありますが、このように動物の日本名(漢名)が中国の影響を多く受けていることが解ります。取り上げていけば興味がつきませんが、今回はこれぐらいにしておきます。動物の名前については漢和辞典、国語辞典、中国語辞典等、ひも解いていくと結構暇つぶしにもなりま

参考文献

- 動物2600年史 大阪市立動物園 昭和16年
- 動物台帳 同上 昭和16年
- 中国經濟動物誌 中国科学出版社
- 中国の動物地理 中国科学院 日中出版
- 中国産哺乳動物の名称について 小森厚 動物誌XVI 2 (1974)
- 鳥類の中国名と和名について 小森厚 動物誌 XVII 2 (1975)
- 中日大辞典 愛知大学 大修館書店
- 世界の哺乳類和名中国名対照便覧 日本野鳥の会 (飼育課長代理 中川 哲男)



# 動物園グラフ

## “中国の動物達”

上海動物園との第8次動物交流のため中国を訪れました。上海動物園は中国産の動物の繁殖に力を入れており、非公開の繁殖センターを持っています。動物園では、多くの中国特産の動物が飼育展示されていたので、その一部を紹介しましょう。



アモイトラ (華南虎)

中国には3亜種のトラが分布していますが、アモイトラは中国南部に分布する小型のトラで、最も少なく、中国以外の動物園には飼育されていません。



イボハナザル (金絲猴)

中国四川省の山岳地帯の針葉樹林、竹林などに生息しています。上海動物園では毎年繁殖しており、赤ちゃん(写真右)も見ることができました。



## 11・12月の動物園日記

- 11/30. ホッキョクグマの赤ちゃんの鳴き声をはじめて確認しました。以後毎日確認することになりました。
- 12/1. フクロウやキジバトなどの保護動物を自然復帰させました。
- 12/3. カムリカイツブリを1羽保護しました。中国の北京動物園の李園長ほか2名の方が来園見学されました。
- 12/4. 鳥の楽園のハワイガンが今季最初の卵を産みました。
- 12/5. ペンギンの爪切りをしました。
- 12/6. スッポンを1頭保護しました。

- 12/7. 11/4に生まれたアミメキリンの赤ちゃんの愛称が「リントロウ」に決定しました。
- 12/8. フクロウを1羽保護しました。福井県鯖江市の西山動物園の職員の方4名が来園見学されました。
- 12/9. 10/31に脚を骨折したシュバシコウに義足を装着しました。
- 12/10. ホシハジロを1羽保護しました。コウノトリ保護増殖会議(豊岡市)に当園職員が出席しました。
- 12/11. 園内安全対策会議を開催しました。
- 12/12. ヤマネを1頭保護しました。



アカゴウラル (赤斑羚)

ゴウラルは山岳地帯に住むウシ科の動物で、ニホンカモシカによく似ています。アカゴウラルはチベットに分布する亜種で桃赤色をおびた淡褐色の毛をしています。



コウノトリ (白鶴)

日本にもかつて生息していましたが今では稀に飛来するだけです。上海動物園では1984年に世界で初めて繁殖に成功しています。

- 12/13. キジバトを1羽保護しました。
- 12/15. 18年間飼育したオスのヒグマが死亡しました。
- 12/16. 動物園裏側ウォッチングを開催しました。中国の成都動物園の職員の方2名が来園見学されました。
- 12/17. 大阪市自然史博物館の職員の方1名がゾウの足跡の化石の分析のため来園見学されました。
- 12/20. ウグイスを1羽保護しました。
- 12/21. クロサイの雌が下痢をし、投薬を開始しました。
- 12/22. 迎春準備の干支の動物メ縄飾りの行事をブ



ノガン (大鶴)

大型のコウノトリ目の鳥で、中国東部の広大な草原や荒地に住んでいます。日本では稀に記録されることがあります。



ヨウスコウワニ (揚子鱷)

揚子江下流などに分布する淡水域に住むワニで、温帯に住むため冬眠します。上海動物園では毎年繁殖しており、今年の秋には第8次交流動物として来園する予定です。

- レス公開しました。
- 12/23. トラフズク、オナガガモ、ゴイサギを各1羽保護しました。出産準備のためキリン舎内を間仕切りました。
- 12/24. ローランドゴリラの雌が口内炎になり、投薬を開始しました。
- 12/27. レッサーパンダの雌が跛行していたので診察した結果、入園者の与えたあめ玉が足裏に付着していました。リスザルの雄が闘争により怪我をしたので手術をしました。
- 12/28. クロサイの雌の下痢が完治しました。ローランドゴリラの雌の口内炎が完治しました。



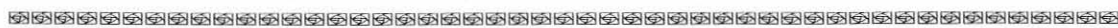
☆ 上町台地の照葉樹林帯

美術館の正面から北に向って数km程続く林があります。市内のまとまった緑としては数少ない所の一つで、これが有名な上町台地の照葉樹林と呼ばれるものです。クスノキやシイなど西日本の潜在植性の大木でしめられています。大半は社寺の中にありほとんどの部分が立ち入ることができませんが、ここ天王寺公園内では市民に開放されて憩いの場所になっています。この緑地帯は大阪の自然史上学術的にも価値の高いものであり、大阪の原風景が残されているといえます。初夏の頃、更新する新芽は生命力にあふれ、森全体が萌えあがっているような印象をうけることでしょう。一度大樹の下から見あげ大古の自然のなごりにふれてみるのはいかがでしょうか。

(大野 尊信)



上町台地の照葉樹林帯



☆ 日本庭園慶沢園



慶沢園の風景

ここ慶沢園は大阪市の南の玄関、昔から市民に親しまれている天王寺公園の一面に位置し、四季おりおりの風景を都心といった身近さの中で提供しています。回遊式の庭園は明治時代の名庭園師として名高い小川治兵衛氏の作によるもので、現在に明治の作庭の姿をとどめています。

その名の由来も伏見宮貞愛親王から贈られたもので、初め「恵沢」の字を用いていましたが大正7年に現在の「慶沢」の字に改められました。

沿革：大正10年、住友家の大阪市外への転宅に伴

ない住友家から慶沢園を含む茶臼山一帯の寄付を受けました。

昭和34年5月に一般公開を行いました。

施設概要：四阿、昭和34年3月建築。

茶室(長生庵)昭和35和10月建築。池、滝、石舟、龍頭石も配され、庭園にふさわしく、松をはじめとして、椿、梅、桜、さつき、しょうぶ、さるすべり、秋の紅葉など四季を通じて楽しめます。また、四阿から眺める、中の島、亀島風景も格別です。一度ご来園下さい。(山元 貞幸)

§ キリンの赤ちゃんの愛称決定

当園では、昨年11月4日誕生したキリンの赤ちゃんの愛称を募集していましたが、12月16日に命名式を行い、「リントロウ」と決定しました。これには5,958通の応募があり、最も多い名前は「ハルヤ」でしたが、母親の「ハルミ」と良く似ており、担当者が名前を呼ぶとき、混同しやすいのでとりやめました。2番目は「タロウ」という名前でしたが、エランドのオスに「タロウ」という名前がついており、キリンの「タロウ」ということから、9位の「リントロウ」に決まりました。



「リントロウ」の名前で応募された53名の方から抽選で19名の方に、記念品としてキリンのぬいぐるみをプレゼントしました。

§ 動物園裏側ウォッチング開催

日頃見ることができない、動物園の裏側を見ていただくこと、動物園裏側ウォッチングを12月16日1時に開催しました。今回が2回目、昨年同様、参加者40名は2班に分かれてゾウ、サル舎など5つの動物舎ほか、調理場、病院、ボイラー室などの施設を



ラクダの横で熱心に説明をきく参加者

見学し、各施設の担当者から説明を聞きました。動物舎の中はこんなふうになっていたのか、動物の餌の種類は色々あるのだなあ等々、参加者の中から驚きの言葉が聞かれました。

§ 新春行事色とりどり

新春は1月2日から営業を始めましたが、新春行

現在の飼育動物数

(平成2年12月31日現在)

哺乳類	13目	97種	388点
鳥類	20目	187種	741点
爬虫類	3目	33種	72点
合計	36目	317種	1201点

事として、天王寺公園では2日、3日の両日に「羽根つき大会」と「バダーゴルフゲーム」を行いました。動物園では2日に所長がヒツジの話を中心に年頭のご挨拶を申しあげ、2日、3日の両日にレクチャールームで動物のビデオを上映しました。また公園、動物園の各ゲートでもお年玉プレゼントとしてオリジナルカレンダーを1000名の方に進呈しました。この他、3日の1時から園内で「もちつき大会」を行い、可愛いお子様約350名につきたての「きな粉餅」をプレゼントし、お正月ムードを盛り上げました。

なお、展示館では1月2日から2月11日まで「羊の郷土頑具展」を行っています。



また、展示館とヒツジ舎前には松の内の間、青竹にメ縄飾りを施しました。



ヒツジの郷土玩具展の出品物

◎ お知らせ

動物のお話とスライドの会  
2月17日(日) バードウォッチング  
3月17日(日) サルのお話  
時間：午後1時～2時  
場所：レクチャールーム  
2月17日のみバードケージ“鳥の楽園”

◎ テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレフォンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。  
電話番号 771-9999

\* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。  
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>  
B5変型判・オールカラー・各定価580円

### むしくらしと いかた

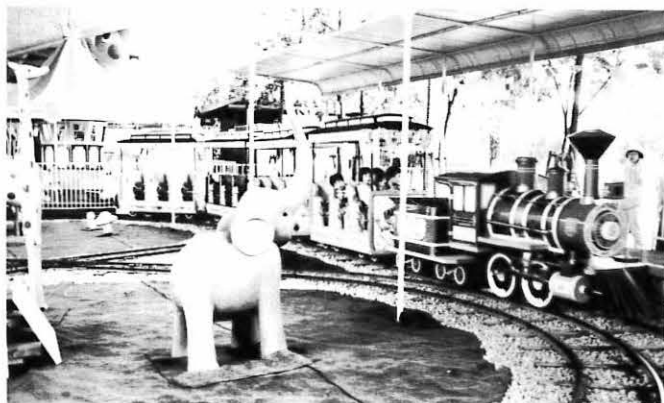
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの くらしと いかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

オートフォーカスカメラに

# フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです



カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

# 歌集犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死  
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る  
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入  
B6判・270頁  
3000円・〒不要

### 《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究者)
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い  
求めになれません。  
直接当会へお申し込みく  
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用  
ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで  
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

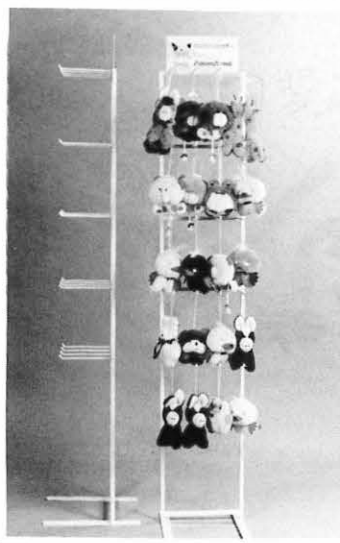
入園の記念・手引に……



オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

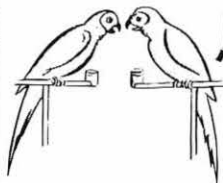


## 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

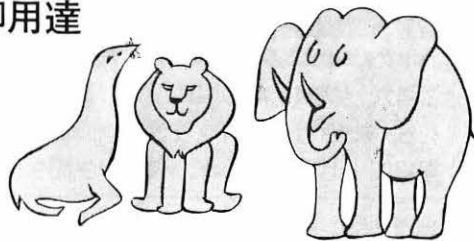
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06) 704-8580  
FAX: (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

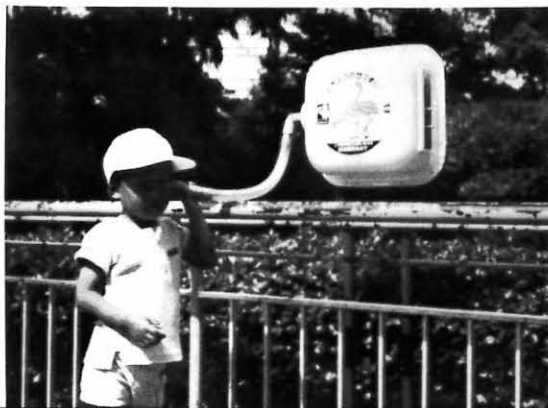


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

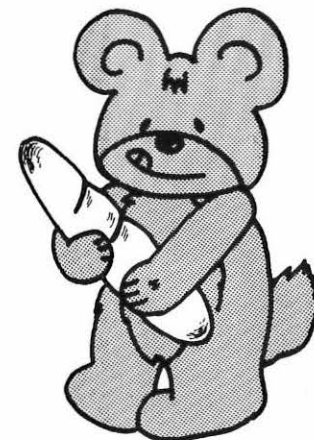
関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、ご休憩は

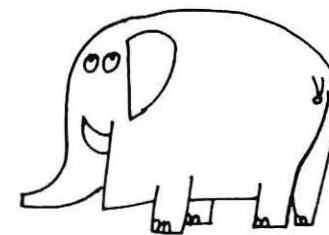
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



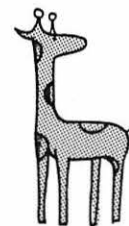
## 天王寺動物園内



## 南園売店

大阪市天王寺区茶白山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内での写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますので説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願ひ致し  
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444





雪印乳業

唯ちゃんも、  
とってもゼリーも、  
ますます成長しました。



浅香 唯

# フルーツゼリー とっもゼリー



野生動物をみんなで守ろう

# WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF 国際保護動物ぬいぐるみコーナー”があります。  
このぬいぐるみにはパンダマークがついており売上げの一部はWWFJ (世界自然保護基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー



お申込み、お問合わせは——  
社団法人 大阪市天王寺動物園協会  
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア 商事部  
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。  
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF (WORLD WIDE FUND FOR NATURE) とは？  
世界自然保護基金。世界中の危機に瀕している動物植物と、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1991年2月10日発行 (毎月10日発行) 第27巻 第2号 (通巻306号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-3 7823

編集委員

伊東重朗 / 大西史朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 奥上 昇 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二郎  
榎原安昭 / 森本泰利 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道